

氏名	O・A
専修	生圏システム学専攻
学年	修士1年生
渡航先	台湾
期間	2023/6/26～2023/7/25
内容	<p>今回の台湾大学 BACT プログラムでは台湾大学での授業の受講、台北―台南までの台湾全土をめぐることでの歴史、文化、生態系への理解の深化、グループメンバーと協力しての演習林でのリサーチプログラムと様々な経験を得ることができました。私は BACT プログラムに参加するまで長期で海外に滞在したことがなく参加するまではホームシックになったらどうしよう、授業を休んでまで行くものだったのだろうかなど非常に不安でしたが実際に参加してみると非常に楽しく実りある期間だったと感じております。</p> <p>今回のプログラムから学ぶことができたことの1つに台湾の亜熱帯林の見学があります。自分は大学院で森林生態系を専攻しており、以前から熱帯/亜熱帯の森林をぜひ見てみたいと考えておりました。実際に台湾を訪れてみると亜熱帯の植物の形の自由さ(地面についた枝から根が生えて地面に根付いている)や、つる植物の多さ、動物の個体密度の高さに感銘を受けました。日本国内では稀な熱帯、亜熱帯の生態系を実際に見ることができたことは帰国してからの研究と学習に非常に役立っていると感じております。</p> <p>2つ目は物事の進め方の違いです。本プログラムには東京大学からの参加者のほかに日本の他大学や他国の台湾大学の協定校に所属する学生が参加していました。プログラム終盤に行われた演習林でのリサーチプログラムでは異なる大学に所属する学生同士でグループを組み、研究を実施発表しました。演習林で行う研究であれば研究目的も方法を自由というかなり裁量の大きいものでした。そのため、研究内容と方法、進め方までグループで話し合いを行い決めていくことになるのですが、その過程で意見が割れ、コミュニケーションをとることが多くありました。自分の属するコミュニティでは意見が割れるようなことがなかった点まで話し合っていくなかで、今まで自分が疑いもしなかったことも、もしかすると常識ではないのかもしれないと考えるようになりました。この経験は自分の認識や行動を見直すうえで今でも自身の幅を広げるのに役立っています。</p> <p>本プログラムに参加して得られた経験は、プログラムに参加する前は予想さえしなかったようなものでしたが、今振り返って考えてみると自身の研究、物事への認識を変えより良いものにしていくと感じております。結びの言葉にはなりますが、この貴重な機会をくださった教務課留学生ご担当者様、留学資金をご支援いただいた東京大学農学 140 基金様、プログラムを運営していただいた台湾大学の職員の方々、一緒にプログラムに参加した BACT メンバーに心よりお礼申し上げます。</p>